

電子リソースの有効化

こんにちはこのセッションでは、購入した電子リソースを公開するために

アクティブ化する方法と

アクティブ化されたリソースへのアクセスをテストする方法を学習します

電子リソースを購入し

ベンダーから入手できるようになったら

一般に公開するために、アクティブ化する必要があります

アクティベーションが必要な電子リソースを見つけるには

[タスクリスト]を開き、[電子リソース]にある[アクティベーション]オプションの1つに移動します

これにより、[電子リソースアクティベーションタスクリスト]に移動します

[リソース]+[電子リソースアクティベーションの管理]からここに移動することもできます

ここでは、アクティベーションが必要なタイトルのリストを確認できます

電子リソースはコレクション、ポートフォリオ、または図書場合があります

このリストを検索したりフィルタリングしたりすることができます

デフォルトでは、タスクは割り当てられておらず、[未割り当て]タブにあります

ただし、タスクのジョブを開始すると、そのタスクが割り当てられます

自分自身または別のユーザーにタスクを割り当てることもできます

いくつかのタイプの電子リソースをアクティブ化できます

まず、電子コレクションのアクティブ化について説明します

コレクションを見つけて、[オプション]+[アクティベーション]をクリックします

アクティベーションウィザードのステップ1で、コレクションレベルのメタデータを入力できます

デフォルトでは、**Mark Bib as Suppressed**値がチェックされています

これは、コレクションレベルの書誌レコードが検出システムに公開されないことを意味します

必要に応じて、コレクションレベルでプロキシを追加できます

ただし、このレベルで定義されたプロキシは、サービスまたはポートフォリオには適用されません

このセクションでは、**Central Discovery Index (CDI)**に関連する情報を入力します

CDIは、**Ex Libris**が管理する電子タイトルの統一された中央索引です

ここでは、電子コレクションがどのように検出されるかを管理します

このコレクションの一部のタイトルのみを購読している場合は

ここで**[はい]**を選択すると、購読していないコンテンツのフルテキストリンクが表示されません

Almaでアクティブな場合でも、**CDI**で利用可能なフルテキストとして表示されません

このオプションを選択すると、所蔵情報を**CDI**に公開する際にこのコレクションが抑制されます

これは、オープンアクセスコンテンツの場合、検索結果を圧迫しないようにするために有効です

このコレクションに1つ以上のサービスがある場合、**[フルテキストサービス]**セクションで

[電子コレクションサービスのアクティブ化]を有効にします

[サービスを利用可能にする]フィールドはデフォルトで無効になっています

Ex Librisは、アクティベーションウィザードを完了し、アクセスを確認した後に

サービスを利用可能にすることを推奨しています

今後、コレクションに追加した新しいポートフォリオを自動的にアクティブ化することができるようになります

これは、集合的なコレクションの場合に便利です

アクティベーションの開始日と終了日を設定できます

それ以外の場合は、手動で非アクティブ化しない限り、資料を無期限に利用できます

サービスのパブリック名、パブリックノート、および認証ノートは、ここに追加できます

書誌が公開されている場合は、ディスカバリーシステムのエンドユーザーに表示されます

[次へ]をクリックします

ウィザードのステップ2で、リンク情報を入力します

ここで定義されたプロキシは、コレクションのサービスレベルとすべてのポートフォリオに適用されます

ベンダーの要件に基づいて、コレクションにLOC_IDやコレクションIDなどの

特別なパラメータが必要な場合

入力すべき適切なフィールドがここに表示されます

[次へ]をクリックして続行します

ウィザードのステップ3では、アクティベーションタイプに3つの選択肢があります

このコレクションのすべてのポートフォリオをアクティブ化したり

アップロードしたExcelファイルで指定したポートフォリオを選択的にアクティブにしたり

選択したポートフォリオを手動でアクティブ化できます

この例では、すべてのポートフォリオをアクティブ化するデフォルトを使用します

[次へ]をクリックします

アクティブ化するポートフォリオの数など、アクティベーションの概要をレビューし

[アクティブ化]をクリックします

Almaはポートフォリオをアクティブ化するためのジョブを実行します

次に、アクティブ化されたコレクションへのアクセスをテストしましょう

私たちのコレクションは、[自分に割り当て]タブにあります

コレクションのステータスは[アクセスを確認]となっています

[オプション]+[アクセスのテスト]をクリックします

ここに、このコレクションのポートフォリオのリストが表示されます

必要に応じて、ここからポートフォリオをアクティブ化または非アクティブ化できます

ポートフォリオのアクセスをテストするには、[オプション]+[アクセスのテスト]をクリックします

[ViewIt]タブが開き、Primoユーザーにアクセスリンクがどのように表示されるかを確認できます

リンクをクリックして、フルテキストサービスに移動します

アクセスをテストした後

アクティベーションタスクリストに戻って、アクティベーションタスクを完了しましょう

コレクションを見つけて編集します

ステータスをアクセス確認済みにアップデートします

保存します

コレクションがディスカバリーに表示されないようになっている場合は、[オプション]+[抑制解除]をクリックします

これにより、ユーザーがコレクションを見つけられるようになります

タスクに必要なすべてのアクションを完了したら、[オプション]+[完了]をクリックします

リソースがアクティベーションタスクリストから削除されます

電子コレクションとそのポートフォリオをアクティブ化する操作は以上です

アクティベーションタスクリストからスタンドアロンポートフォリオをアクティベートすることもできます

目的のポートフォリオについて、[オプション]+[アクティブ化]をクリックします

アクティベーションを確認します

必要に応じて、ポートフォリオを編集してリンク情報などをアップデートすることができます

保存します

[オプション]で、アクセスをテストしたり、タスクを[完了]としてマークしたりできます

ありがとうございました